

学校教育目標	「ともに生きる子 ー信頼と安心と笑顔の学校ー」			
	学校のあいことば「かながえよう！ かかわろう！ かがやこう！」			
学校概要	創立 48 周年	学校長 山崎 由美	副校長 内 和俊	2 学期制 一般学級：15 個別支援学級：4
	児童生徒数： 465 人		主な関係校： 旭北中学校 白根小学校	

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	旭北中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
	旭北中学校 白根小学校	自分の気持ちや考えを上手に表現するとともに人の話に耳を傾けてコミュニケーションができ、さらに高い自尊心をもって自他ともに大切に目標に向かって努力できる子ども ・合同授業研究会を通じた授業改善、授業力の向上。 ・合同研修会を通し、児童・生徒の「観」の共有。 ・教職員間の交流、相互理解。
〈自分で考え 判断し 行動する力〉 〈人と豊かに関わり つながる力〉		

中期取組目標	○子ども一人ひとりが自分の考えをもち 自分自身のよさを発揮し、まちとともに歩む学校にします。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年目は失敗を恐れず、挑戦する気持ちを育てます。</li> <li>・2年目は他者意識をもって自分も相手も大切にすることを育てます。</li> <li>・3年目は、自分の考えをもちそれを表現できる力を育てます。</li> <li>・3年間を通して、まとのつながりを大切に、まちを愛し、まちから必要とされる関係を構築します。</li> </ul>

重点取組分野	具体的取組
知 授業力向上	①学力状況調査の結果をもとに児童の実態を分析し、授業づくりや朝学習の内容に反映させる。②表現する場を設けるだけでなく、児童が考えるのを待つ授業を展開する。③発達段階や学年の実態に応じて年間指導計画を見直し、児童が学ぶ必要感を感じるカリキュラム作りを目指す。
担当 学力向上	
徳 人権教育の充実	①様々な人と関わったり、様々な立場になって考えたりできるよう、柔軟かつ児童の発達段階に応じた適切な人権学習の場を設定する。②学習面、生活面ともに児童の成長や変容が見取れるよう、職員間での情報共有を密にする。また、小さなことでも見落とすことなく、児童本人に成長の様子をその都度伝えることで、自己肯定感を高めていけるようにする。③間違えてもよい教室の風土づくりを行う。相手の考えを認めたり許容したりできる人間関係の基盤をつくる。
担当 なかよし・人権・福祉	
体 健やかな体	①水泳学習や体育的行事の実施に向け、服装や用具の整理、準備や安全な場の設定など、特に基本的な内容を中心に情報共有に取り組む。②縄跳び、歯磨きについては、年度当初から集会を企画したり、長い期間でのめあてを設定したりするなどして、年間を通じて活動を行う。
担当 体育	
公開 地域連携	①きずなの会の方々を中心に地域と連携を図りながら学習活動を行っていきたい。そして地域と関わる中で、自分たちのまちのよさを実感できるようにする。②学校運営協議会での話し合い内容を教職員や保護者にも広く周知させる。
担当 教務	
いじめへの対応	①研修を通じて、いじめの未然防止のための手立てを身に付け、いじめを早期に発見する態度をさらに上げていく。また、いじめの事案についてより詳細に共有できる場を設け、担任1人が問題を抱え込まないようにする。②子どもや保護者の心に寄り添いながら、心のケアができるように、カウンセラーを講師に招いての研修も行う。
担当 児童指導・特別支援	
人材育成・組織運営(働き方)	①作成した分掌の年間計画のデータを全職員が見つけやすいところに保管し、いつでも各分掌の仕事内容や分担を確認できるようにする。そして自分の分掌以外のことも把握しバックアップできる体制をつくる。②データ共有が習慣化されてきているので、職員からの意見を取り入れ、さらに活用しやすくなるように整備する。③昨年度から校内のいらぬもの処分が進んでいるので、備品の管理や整頓をさらにに行い、働きやすい環境を作る。
担当 学校評価	
特別支援教育	①特別支援研修を通じて職員の特別支援教育に対する知識や意識をより高める。②個別級と学年との連携を進め、個別級への理解をさらに深める取組を行う。③どの子どもも安心して過ごせる教室環境づくり、授業づくりをする。
担当 児童指導・特別支援	
交流活動	①年間指導計画に異学年交流できる場面を記載し、なかよし活動だけでなく、学級間や学年間での異学年交流の見直しをもてるようにする。②日常的な、自然発生的な異学年交流ができるよう、休み時間に一緒に遊んだり、教師が意図的に活動を仕掛けたりする。
担当 なかよし・人権・福祉	
特別活動	①SDGsの視点をもって、1委員会1実践を提示し、それぞれの委員会が自身の強みを生かし、話し合う必要感のある提案ができるようにする。②1年間のうちどこか1回の代表委員会で、学年や学級から議題を募集する会を設け、全校が関わる意識を高める機会を作る。③課題の持たせ方や学級会の進行について、若手を対象とした研修を行う。
担当 特活	
担当	